

福祉文教常任委員会協議会会議録	
1 開会日	平成22年1月19日 午後 1時30分 開会 午後 4時16分 閉会
2 場 所	議員控室
3 出席委員	奥津勝子委員長 竹内恵美子副委員長 鈴木京子委員 山田喜一委員 浅輪いつ子委員 土橋秀雄委員 渡辺順子委員
4 傍聴議員	百瀬恵美子議員
5 説明員	町長 三好正則 副町長 吉川重雄 教育長 福島睦恵 二挺木子ども育成課長 林主幹 大隅室長
6 職務のため出席した職員	局長 穂坂 優 書記 岩田隆吉
7 協議等の事項	(1) (仮称) 子育て支援総合センターについて (2) 次世代育成支援対策地域行動計画(素案)について (3) たかとり幼稚園工事進捗状況について (4) その他
8 その他	

(1) (仮称) 子育て支援総合センターについて

建築スケジュールは、建築確認の遅れにより3月19日の完成予定が1月ほど遅れ4月の中旬にずれ込む。繰越になると考えている。なお、オープンは予定どおり5月中。また、2月に建設課も出席して地域の説明会の開催を予定している。

実施計画(案)の前回からの変更点は、4の利用者の(2)子育てサークル及び子育てボランティア等の個人又は団体と5の利用料を新たに追加した。

3月定例会に「大磯町横溝千鶴子記念子育て支援総合センター条例」を上程する予定。条例施行日は平成22年5月1日。

◎主な質疑

問. 9月議会では4月1日開園と言っていたがいつ5月オープンになったのか。工期が延びたことによるペナルティは。

答. 昨年11月の計画案の説明時にも完成後の道路工事の関係で5月オープンとなっている。耐震偽装の関係で時間がかかるようになった。民間の検査機関に出したが期間いっぱい確認がおりた。町の建築確認の遅れが原因であるためペナルティはない。また金額の変更はない。

問. 実施計画(案)の2の目的の子育て親子は子育て中の親と子にしたほうがよいのでは。また、2の目的の地域と4の利用者の(3)の地域の意味は。また(5)ファミリーサポートセンター事業の進捗状況は。

答. 子育て親子は検討して直させていただく。上の地域は町内、下の地域は国府新宿の意味、調整して直させていただく。ファミリーサポートセンター事業は、いま援助会員と提供会員の募集をしているが、提供会員は5名ほどきている。

問. 昨年事故繰越しが多かったが、体制の整備はしたか。

答. 何らかの事故があつて繰越しをしている。

問. 道路工事の説明は総務建設常任委員会に行うのか。

答. まだしていない。建設課長にそういうお話しがあつた旨を伝える。

問. 地域の方の利用のために休館日を分けたほうがいいのか。

答. 夜間、休日は運用の中で地域の方に使ってもらうように考えている。また説明会で地域の方の御意見をいただこうと思っている。

問. すばるのような名称の募集の考えは。

答. 愛称は完成後募集する方向で進めている。

問. 団体登録が必要か。

答. 検討中である。

問. 実施計画(案)の3の事業の(2)の相談員の考えは。4の利用者は

条例では18歳までが利用者となっているが。また(1)の保護者はもう少しゆとりをもって想定したほうがいいのでは。

答. 相談員は、現在は法人に委託しているが4月から直営で職員が対応する。臨時職員は町外を考慮した中での採用を考えている。利用者の原則は、利用者の(1)と(2)ということで位置づけをさせていただいた。保護者は検討をさせていただく。

問. 窓口が一番大事だと思うが。

答. 相談は大切だと思っており、職員が行うような形を考えている。

問. 実施計画(案)の目的の中に町内の子育て家庭に対する育児支援を行ったり、地域住民との交流の場ともするという文言を入れて、やっていくようにしたほうがよいのでは。

答. 子育て親子の交流又は地域の交流という文言で整理していきたい。

問. 指導相談員は有資格者の専門家を置いてもらいたいが。条例の第3条の規定の後に休館日とか開館時間の規定を入れるべきでは。それと第8条の2行目の損害を賠償する規定を設けるを町長の認定に基づき損害賠償をしなければならないとしたらどうか。施行日は5月1日でいいのか。

答. 資格のある方を配置したいとは考えているが、常駐は費用の面で難しい。休館日、開館時間は規則で規定していきたい。第8条に損害賠償の規定を設けるという意味。建物は4月中旬に完成するが運営は5月1日からということ。

問. センターの管理運営経費はどのぐらいか。

答. 維持管理経費は500万円をちょっと超えたぐらいではないかと思う。正職員の人件費は入っていない。平成21年度の委託経費は700万円ぐらい。職員体制は現在2名(週1日3名)、来年度は4名体制を予定している。今までより安くなることはない。

問. 相談業務ができるような予算の措置は。

答. 子育てに係る相談は多岐にわたる。1人で一手に全部を受けられない。相談を受けとめて、振り分けて、問題解決をしていくかが相談員の仕事だと思っている。そのような事が出来る方を相談員としていきたいと考えている。

問. 子育て支援のNPOの方を臨時職員に活用する考えは。

答. あるものについては活用していきたい。

(2) 次世代育成支援地域行動計画(素案)について

平成22年度からの5年間の計画。後期計画のため「行動計画」部分の見直し。見直しの柱は「待機児童対策」、「子育て支援センター」、「ファミリーサポートセンター」、「安心して遊べる場所・安心して歩ける場所」、

「幼稚園統廃合」、「私立幼稚園就園費補助」、「児童虐待・障害児（発達障害児）の支援」。計画の策定のため昨年の12月21日に次世代育成支援対策地域協議会を設置し、1月18日に第2回を、2月、3月に各1回を開催予定。2月にパブリックコメントを経て策定をする。

◎主な質疑

問. 前期計画と後期計画の地域協議会のメンバー継続性は。

答. 同じ人は1人。前回の副会長が今回会長になっている。なお、委員の所属は前回と同じ団体である。

問. 保育園の分園は。特定保育と保育ママとの関係は。預かり保育の内容は。特別支援教育の計画の該当箇所は。また総合的な具体的な記述はあるのか。

答. サンキッズに増改築と空き店舗の活用をなげかけている。特定保育は保育所の入所基準を満たさない方のための保育、保育ママは家庭で1歳未満の児童をみるもの、預かり保育は幼稚園の保護者のための保育の充実（実施日数、預かり時間の延長）。特別支援教育の計画の該当箇所はページ66、68、80。縦と横のネットワークによる組織も含めいろいろな支援という意味。

(3) たかとり幼稚園工事進捗状況について

工事は予定どおり進捗し3月に完成する予定。月京幼稚園の解体工事は4月・5月に実施。

◎主な質疑

問. 月京幼稚園の跡地は東海大学大磯病院に売却するが、契約に小児科医療の充実を入れてもらいたいが。

答. そういう形で努力していきたい。

(4) その他

ア 教育施設工事等執行状況表について

平成21年度の19の教育施設工事等の執行状況を報告。

◎主な質疑

問. 電子黒板の視察先は。また電子黒板とは。

答. 都内の学校2校と相模原市が1校の3校を選考委員会が視察。電子黒板は、プラズマタイプと現在の黒板のように使えるタイプの2タイプがある。ホワイトボードを正方形にしたような形。

問. 導入する理由は。

答. 子どもに与えるインパクトが全然違う。先生方も導入に前向きである。

問. 費用及び補助は。

答. 単価は予算では1台60万円、半分が文部科学省の補助。残りの90%が臨時交付金、5/100が一般財源。黒板型の電子黒板で移動式。1学年に1台で計18台。

問. 19の事業は21年度中に終了するのか。

答. 太陽光発電が品不足のうわさがあるが、議会承認前であり実際はどうかかわからない。

イ 子ども手当について

昨日国の会議があり当初予算に組むことができた。2カ月が児童手当、10カ月が子ども手当。5億1千万円ぐらい。今年度の児童手当の町負担分の5千万円が町負担となる。

ウ 大磯町立の中学校等の設置に関する条例の一部を改正する条例の上程担当としては小磯幼稚園に係る大磯町立の中学校等の設置に関する条例の一部を改正する条例を再度3月定例会に上程をしていきたいと考えている。

◎主な質疑

問. 12月以降の教育委員会での小磯幼稚園と使用料の検討内容は。

答. 誘致する幼稚園の未決定、町単独補助内容の未決定、町民等への説明不足の3つが反対理由と考えている。廃園後の募集は先方との関係ではずせない。補助内容は今後つめる。説明会は開催する。選考委員会や募集要項の検討などの準備は進めている。また使用料は財政課と協議をしている。

問. 条例改正をしないと募集ができないというところの法的に困ることがあるのか。

答. 法的は別にして、募集する以上は確実にそれが実現できる担保が必要であると考えている。

問. 保育園では最後に条例改正をしたが。

答. 保育園のスケジュールでも条例改正は真ん中に入っていた。